

平成 29 年度入学以降の工学部建築学科個別学力検査（後期日程）「立体スケッチ」
問題例、評価基準等について

■ 問題例

- 1) 配付された立体模型は、ひとつの正四角柱を大・小に分割したものです。この二体を机の上で自由に組み合わせて配置し、バランスのよい美しい構成をつくりなさい。二体は接触していても、していなくてもかまいません。
- 2) 1) で出来上がった形を解答用紙に鉛筆で描画しなさい。二体の模型の全体を描くこと。陰影や背景などによって立体感をつけること。用紙（A4 判）は縦長に使っても横長に使ってもかまいません。

（試験時間 60 分）

■ 評価基準

以下の 5 つの評価項目について、それぞれ 0 点または 1 点で評価し、合計 4 点以上を面接及び大学入試センター試験の成績による合否判定の対象とします。

(1) 立体の構成力

二体がバラバラで無関係な配置のもの、元の一体の正四角柱のままのもの（構成放棄）、重力空間において非現実的ないし不安定なものは、低く評価します。

(2) 画面の構成力

紙面の一部だけに小さく描いたもの、紙面から大幅にはみ出したもの、ひとつの立体にもうひとつの立体がほとんど隠れてしまっているものは、低く評価します。

(3) 立体の観察力

比例が大幅に崩れて（扁平、細長すぎるなど）いるもの、基盤面の平面性が失われているものは、低く評価します。

(4) 立体の表現力

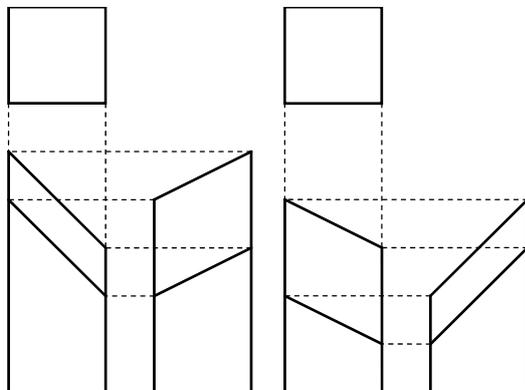
陰影などを利用して立体感を出そうと試みていないもの、陰影が相互におおきく矛盾しているものは、低く評価します。

(5) 集中力、クラフトマンシップ

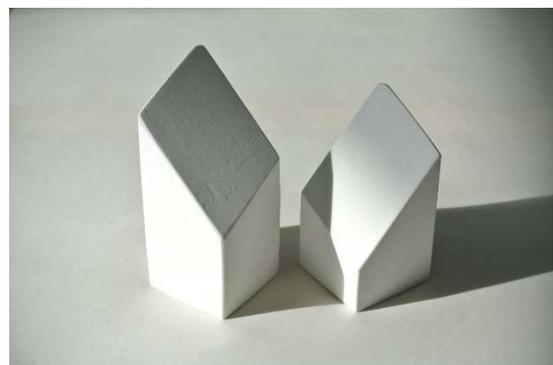
試験時間をフル活用して精密な作品を懸命に仕上げようとしていないもの、試験時間に対して描画内容が僅少・貧弱なもの、筆致が乱雑なもの、重要部分を消すなど能力隠蔽の痕跡があるものは、低く評価します。

■ 立体模型の三面図・写真

立体模型は、ひとつの正四角柱（正方形底面の 1 辺の長さ 40 mm、高さ 120 mm）を大・小に分割したものです。次に示すのはその一例です。検査では正四角柱の切断面が異なる数種の模型をランダムに配付します。模型には製作上のわずかな個体差があります。



(大) (小)
立体模型の三面図の一例



立体模型の写真